

# 愛媛基礎工事業協同組合の活動 1

愛媛基礎工事業協同組合 田中 清久

高度成長期から成熟期に入った日本は、物が溢れ娯楽が充実し、仕事に没頭することを美とした時代から、心身共にゆとりのある生活を望む時代になりました。企業は人を選ぶ側から選ばれる側へと変化し、求職者も自分に合った企業が見つからなければ無理に就職をしなくなったようにも思われます。建設業界は度重なる不況の影響を受け、企業が生き残るためにあまりにも「人」を無視しすぎ、このギャップに順応できていなかったのだと思います。

基礎工事業界も然り、いま抱える一番の問題はなんといっても人材の不足です。

リーマンショックの前でしたら、募集をかければ1週間で何人かは応募してきたものですが、今は年に1~2人の応募があれば良い方です。また、2~3年経ってからの離職率が非常に高く、ようやく仕事を覚えてきた頃に辞めてしまいます。これは経営者だけではなく、そこで働く社員にとっても精神的に大きなダメージとなり、経営者は育てる労力を惜しむようになり、社員は自分の将来に不安を感じて離職の連鎖を繰り返します。

この時代と社会の変化に順応できていなかった私たちが、反省し改善していかなければ、人材不足の問題は改善されないことによりやく気付きました。今は人材が不足しているだけであっても、団塊の世代が完全リタイアした後は人材は枯渇し、事業の継続すら困難な時代がやってくることは間違いないでしょう。

早急な対応が必要ではありますが、前述のとおり反省し改善するならば、まずは自分たちが人を育てる仕組みを考え、働きやすい環境を整え、その経営環境を改善する努力を惜しむべきではないと考えます。なぜなら自分たちが生きる業界ですから、自分たちが動かなければ、決して誰かが・いつか・どうにかしてくれるものではないからです。

とはいえ、企業単体でいくら努力しても、業界に対する社会的なイメージの払拭はできるものではなく、やはり基礎工事業界全体が改善され魅力あるものとならなければなりません。そして、それを社会に広く知ってもらうことが重要となってきます。

少し余談になりますが、

「知ってもらわなければ存在していないのと同じである。」これは愛媛新聞の鈴木孝裕氏の広報情報化のセミナーで教えていただいたことで、例えどんなに素晴らしいことをしたとしても、社会に知って貰えなければ何もしていないのと同じこと、存在していないのと同じことという事を教わり、広報の重要性を初めて知った瞬間でした。それまで私は、周囲に対してアピールすることには消極的でしたが、この瞬間から積極的に広報を行うことを決意し、今回の執筆も取り組ませていただいています。

ましてや、私たちの基礎工事業界のこと、そして全国でも初となる「愛媛基礎工事業協同組合」のことを、建築士の方々をはじめ、広く社会に知っていただける絶好の機会ですので、真剣に書かせていただいておりますし、愛媛県建築士会の広報委員の方々にも、このような機会を与えていただいたことに深く感謝をいたします。

話は戻って、この業界を自分達の子供に継がせられる業界にしたい、人材溢れる魅力ある業界にしたいという熱い想いをを持った企業が集まり「愛媛基礎工事業協同組合」を設立いたしました。

(詳しくは組合のホームページをご覧ください・・・「愛媛の基礎工事」で検索)

団体として取り組むべき課題は山積みではありますが、次回より「人材の確保と育成」「適正な工事価格」「設計と施工」「社会・経済・政治的な環境の改善」について順に執筆させていただければと思います。ご拝読いただき有難うございました。

